

オモキ造りのドブネをつくる

江戸時代には、すでに氷見沖で定置網漁の網取り船として漁撈の主役を担っていたと考えられるドブネは、木造船が衰退に向かう昭和30年代の末頃には現役を退き、現在その姿を見ることはできません。

ドブネは、オモキ造りという、古くからこの地に根付いた造船技術で建造されました。丸太から削り出した、オモキと呼ばれる部材を船体に組み込むオモキ造りは、日本海沿岸地域に色濃く分布する技術です。

全国的に木造船とその建造技術が廃絶の危機にあるなか、日本海沿岸地域のオモキ造りもまた廃絶の道をたどり、氷見のドブネと同じく多くの地域で姿を消していきました。

平成28年度から29年度にかけて、氷見市内の船大工の手によって2分の1スケールでドブネが復元されました。すでに失われた氷見型ドブネを現代に、そして未来に伝えるため、博物館では、その建造工程を映像・写真によって詳細に記録しました。

本特別展では、氷見のドブネについて残された写真や関連資料を展示し、あわせて、復元されたドブネの建造の記録を公開します。さらに富山湾や周辺地域のオモキ造りの木造船から、日本海沿岸に根付いた造船技術の一端について紹介します。



船材の粗木取り
丸太からオモキを削り出す。



ドブネ建造
船首の接合部にチキリを打つ。

復元されたドブネを公開します!!

10月26日(土)・11月2日(土)の両日は、氷見市文化財センター(氷見市中田645番地・旧女良小学校)の一般公開日です。

今回の特別展の主役であるドブネ(2分の1スケール)のほか、多数の和船や漁撈用具を収蔵展示しています。

特別展では見ることができない実物の木造船の数々をご覧ください。

開館時間：午前9時～午後4時 入場無料



ドブネ(2分の1スケール)

氷見市立博物館

〒935-0016 富山県氷見市本町4番9号
TEL.0766-74-8231 FAX.0766-30-7188
E-mail : hakubutsukan@city.himi.lg.jp
U R L : <http://www2.city.himi.toyama.jp/museum/>

●交通機関

鉄 道 / JR 氷見線氷見駅下車、北西へ500m 徒歩7分。

バ ス / 高岡駅前から加越能交通バス氷見方面行、「氷見市民会館前」下車、徒歩1分。

自動車 / 能越自動車道氷見インターから東に3km。

●氷見市立博物館は氷見市民会館に隣接する、氷見市教育文化センター内にあります。

